

平素より General Thoracic and Cardiovascular Surgery (GTC S) には多大なご厚情を賜っております。皆様のおかげをもちまして、2010年度においてGTC S閲覧可能な研究機関は世界中に6997施設を数え、年間ダウンロード数は増加し19856件に達し、本邦以外のダウンロード数は75%に達しました。しかしながら、予てからの念願であるインパクトファクター (IF) 獲得には未だ至っていません。今回、皆様により一層のご協力をお願いしたたく、筆を執りました。

**1. インパクトファクター (IF) とは?**

IF は毎年 Thomson Reuters の引用文献データベース Web of Science<sup>®</sup> に収録された雑誌の平均的な引用回数を示すものです。Web of Science に掲載されるのは、英文誌であること以外に、このデータベースに認識される必要があります。

IF は決して雑誌の「科学的レベルの高さ」を示すものではありませんが、読者が多く、引用されやすい論文を沢山掲載するほど高くなります。それ故に、外科系の雑誌 (Thor Cardiovasc Surg 3,406) より内科系雑誌 (Circulation 14,595 JACC 5,43 Circulation J 3,766) の方が IF が高くなるのが通則です。また、JAMA の IF30.0 を見ても、IF がその雑誌の quality を示すものではないことは確かです。

しかしながら、IF が高い雑誌ほど、読者が多く引用しているのは事実で、雑誌のい

| 対象年  | 過去2年間のJTC&GTC掲載論文の被引用回数:a | 過去2年間のJTC&GTC掲載論文数:b | 仮のIF: a/b |
|------|---------------------------|----------------------|-----------|
| 2012 | 150                       | 311                  | 0.482     |
| 2011 | 130                       | 272                  | 0.478     |
| 2010 | 134                       | 269                  | 0.498     |
| 2009 | 120                       | 248                  | 0.484     |
| 2008 | 45                        | 246                  | 0.183     |
| 2007 | 63                        | 293                  | 0.215     |

※2011年のIF予測値0.478は2011年Surgery分野198誌中170—171番目に相当(170位:0.516/171位:0.432)

※2011年のIF予測値0.478は2011年Surgery分野198誌中170—171番目に相当(170位:0.516/171位:0.432)

### Citation analysis

| Document Type                | Citation Count |
|------------------------------|----------------|
| Annual Report                | 6.50           |
| Review Article               | 0.50           |
| Current Topic Review Article | 2.24           |
| Guest Review Article         | 1.00           |
| Memorial Review Article      | 0.00           |
| Original Article             | 0.60           |
| Case Report                  | 0.26           |
| How to Do it                 | 0.08           |

## Third arch replacement using antegrade cerebral perfusion

見て、遙かな憧れを感じ、いつかは自分も、と励んだものでした。残念ながら英文化された現在の G T C S に若い外科医に対する昔のような引力はありませんが、これは、私たちが世に経たという理由だけでは説明できますまい。本邦の学会英文誌のなかで、 $\pi$  を獲得出来ていない雑誌は G T C S をはじめほんの少数です。我々、編集委員はこの忸怩たる気持ちにバネに、G T C S が真の国際誌と評価されるべく、 $\pi$  獲得に邁進する所存ですので、会員の皆様におかれましては、今後一層のご協力を願えれば幸甚です。



大北 裕  
(神戸大学心臓血管外科)

神戸大学1978年卒業、以後、天理よろづ相談所病院、国立循環器センターを経て1999年から現職。

留 学 歴 : National Heart Hospital & Harley Street Clinic (UK)、University of Alabama at Birmingham (USA)。

趣味：ラグビー場で吠えること  
好きな言葉：「前へ！」

$$\frac{\text{2012 年の 仮インバウトファクター}}{0.482} = \frac{\text{2012 年 IF 誌に引用された のべ回数}}{150} = \frac{\text{2010—2011 年の GTCs 論文数}}{311}$$

## 仮IFを増やすには…

◎Qualityの高い論文をGTCSに投稿する。

Clin Thorac Cardiovasc Surg. (2012) 60:680–708  
DOI 10.1007/s11720-012-0119-7

ANNUAL REPORT

**Thoracic and cardiovascular surgery in Japan during 2010**  
Annual report by The Japanese Association for Thoracic Surgery  
Hiroyuki Kuwano · Jun Amano · Hiroyasu Yokomise

GTCS編集委員会 2013/3/29



## 明日への敢為 Challenge for the future

## 第67回日本食道学会学術集会について

大杉 治司（大阪市立大学大学院消化器外科）

来る6月13日、14日に大阪国際会議場にて第67回日本食道学会学術集会を開催させて頂きます。先日演題応募を締め切らせていただきましたが、66題と本学術集会としては非常に多くの演題応募を賜りました。この場を借りてまずは御礼申し上げます。学術集会のテーマは「明日への敢為 Challenge for the future」といたしました。将来のより良い食道疾患の診療、研究、教育に今敢えて何を為すべきかを目指して、討論頂きたいと思っております。特別講演には今回は医学界から塩沼亮潤 大阿闍梨をお招きする予定です。大阿闍梨は吉野山の金峯山寺蔵王堂から大峯山と呼ばれ

頃厳しい状況で外科診療を行う我々にとって益すること多大と期待致しております。また、国際シンポジウムはNCD登録も始まったなかで、食道癌のステージングについて討論して頂きます。ご存じのように欧米

の食道癌ステージングは本邦の食道癌取り扱い規約とは随分と違うものになってまいりました。本邦のステージングでは長年に蓄積してきたリンパ節転移データを重視した分類、ひいては治療戦略の基礎となっておりま



大杉 治司  
(大阪市立大学大学院消化器外科)  
1975年3月 大阪大学医学部卒業  
1975年4月 大阪大学医学部第2外科・研修医  
1981年3月 大阪大学大学院医学研究科課程修了  
1981年9月 英国マンチェスター大学研究員  
1983年4月 大阪大学第2外科助手  
1993年4月 大阪市立大学第2外科講師  
1997年10月 大阪市立大学第2外科助教授  
2010年4月 病院教授  
趣味：サッカー

かは年齢に関係なく開胸による人工血管置換術はほとんど行われなくなると予想されます。しかし過渡期にある現在では、ステントグラフトなどの低侵襲治療の効果・遠隔成績・問題点を学会で充分に討論してその時点での正しい適応を決めていくということが極めて重要です。この低侵襲の領域においては、その進歩が非常に急速で討論する内容が多量にあることから、ひとつの学会だけでは充分な討論はできません。つまり複数の学会に参加して、最先端の治療をgettingしていくことが、これからの外科医にとって必須です。

兵庫医科大学は、兵庫県の甲子園球場の近くにあり神戸より大阪の方が近いので会場は大阪としました。学術集会では低侵襲治療に関するシンポやパネルを多数企画し、また、特別講演



宮本 裕治  
(兵庫医科大学心臓血管外科)  
1978年 大阪大学医学部卒  
1978年 大阪大学医学部第一外科入局  
1986年～1989年 米国留学(クリニカルフェロー)  
(バッファロー総合病院、マイアミ小児病院、ピッツバーグ大学)  
2002年 大阪大学医学部 講師  
2004年 兵庫医科大学 教授  
趣味：映画鑑賞、旅行

は関西らしい「西川きよし」氏にお願いして全員懇親会でもアトラクションや料理を存分に楽しんでいただけるように考えております。胸部外科学会会員の先生方には是非、多数ご参加いただけることを心より願います。

## 第1回理事会ニュース

日本胸部外科学会第1回理事会  
2012年12月5日(水) 13:00～15:40

## 一、委員会委員承認及び各種委員会報告及び審議事項

- (1) 正会員選出委員会委員の変更案が承認された。
- (2) 選挙管理委員会

- 委員は前年度と変更なしで承認された。
- (3) 推薦評議員候補者委員の変更案が承認された。
- (4) 会誌編集委員会委員会委員案が承認さ

脈に関して、約半数が腹部大動脈と末梢血管(静脈瘤含む)に関しての発表です。学会テーマは、「急速な進化を続ける血管外科―低侵襲と根治性の追求―」としました。医学のどの分野でも日々発展を続けていますが、低侵襲な血管内治療の急速な発展は目覚ましいものがあります。例えば、数年前まで弓部大動脈瘤に対しては全弓部大動脈人工血管置換術がゴールドスタンダードであると誰もが認めていましたが、現在ではこの術式がいずれ無くなるのではと感じられる勢いで、ステントグラフト治療が行われています。実際、従来型の手術にはこれまで耐術が困難と思われていた高齢者でも、このような低侵襲治療なら可能で良好な成果を挙げています。テクノロジーの進歩によって、いつ

- 3) Plagiarism 対策: cross-checkの導入  
論文盗用を妨げるシステムをシュプリンガーで用意できるので導入に向け準備する。
- 4) GJCS印刷媒体の扱い  
全会員を対象にWebでアンケート調査を行った結果、回答数702件(約9%)、送本必要95件(13.5%)、送本不要607件(86.5%)で、送本中止の場合は会費を値下げすべきなどの意見があった。しかしながら全体的な回答数が低い

The 67th Annual Meeting of the Japan Esophageal Society  
**Challenge for the Future**  
明日への敢為

演題募集期間  
2012年11月21日～  
2013年1月24日  
大阪府よりオンラインでの投稿となります

**JES**  
第67回日本食道学会学術集会  
www.congre.co.jp/jes2013/

2013年6月13日(木)～14日(金) 大阪国際会議場  
会長: 大杉 治司 大阪市立大学大学院 消化器外科(第2外科)  
[事務局: 大阪市立大学 消化器外科] 〒545-8585 大阪市東淀川区西淀川1-4-3 Tel: 06-6645-2641 Fax: 06-6645-0057  
[国際事務局: 株式会社JCS] 〒154-8547 大阪市東淀川区西淀川1-3-12 Tel: 06-6225-0255 Fax: 06-6225-0256 E-mail: jcs2013@congre.co.jp

急速な進化を続ける血管外科 ―低侵襲と根治性の追求―

**第41回 日本血管外科学会学術総会の案内**

宮本 裕治  
(兵庫医科大学心臓血管外科)

本学術総会を、平成25年5月29日(水)から31日(金)に、大阪国際会議場にて開催させていただきます。本総会は、日本胸部外科学会や日本心臓血管外科学会とほぼ同じ規模で約750演題が発表予定です。胸部外科領域では、胸部大動脈疾患が共通となります。今回の総会では、約半数が胸部大動

第41回日本血管外科学会学術総会  
The 41st Annual Meeting of Japanese Society for Vascular Surgery  
会期: 2013年5月29日(水)～5月31日(金) 会長: 宮本裕治 (兵庫医科大学 心臓血管外科) 会場: 大阪国際会議場 (グランシップ大阪)  
大会テーマ: 急速な進化を続ける血管外科 低侵襲と根治性の追求  
演題募集は締め切りました。多量のに応募をいただきましたこと、ありがとうございます。なお、演題の報告については、2013年2月15日にメールで通知しております。  
事前登録のお知らせ  
第41回学術総会では、会場の事前登録が事前登録となります。  
事前登録期間: 平成25年2月1日(日)～4月30日  
学術総会参加費: 医師(当日参加)1500円、医師(事前登録)1200円\*  
学術総会方法: オンライン(事前登録)によるオンライン参加\*\*  
\* 医師以外の方々の事前登録はございません。  
\*\* 医師以外の方々の事前登録はございません。



面によるアンケートが必要との意見が出され実施することになった。

5) PGCでのGTCs関連セミナーの開催

英語論文の書き方セミナーを行い250名の受講者があり30名のアンケート回答者があった。好評につき学術集会時には引き続き開催する。

6) 2013年予算と契約頁数

論文数減少のため契約頁数を年間1100ページから840ページに変更することになり、それに伴い契約金は減額となる。

5) 総合将来計画委員会

委員の変更案が承認された。副委員長には委員長以外の専門分野の理事2名をおく。2013年度理事長からの諮問事項 1) 3分野の統合学会としての今後のあり方(例えば、心臓外科医が肺・食道外科的技術で習得しなければならない事項など) 2) 地方会との連絡強化(地方会の優秀演題を本学会に提出してもらう)、Best of the yearの決定など) 3) 学会員を増加させるための対策(サマースクールの継続性、食道セミナーの早期実施) 4) 専門医受験者、更新者の質の評価について委員長の私案がだされ、今後検討していくこととなった。

6) 学術委員会

ある企業が計画している大動脈解離に対する全国アンケートの件につき、検討

した結果、本会と日本心臓血管外科学会との委員会を構成し、アンケートの文面をCOに注意して練り直す(アータベース機構の情報を加味すれば厚みのある調査になる)ことが承認された。また、心臓血管外科専門医認定機構からの本学会学術調査結果を利用する件については許可する。

7) 学術集会委員会

第65回学術集会に関し、学術集会委員によるアンケート結果、学術集会主催者によるアンケート結果が報告され、次回契約の際の参考にする事になった。また、参加者全体のアンケート回答率は26%で昨年を上回ったが次回理事会にてアンケート結果を評価することとなった。委員変更については検討中である。

8) 財務委員会

委員に第67回学術集会の財務担当を追加した。年度計画は積立預金の再検討となり、ZOO法の改定に伴い収支計算書を活動計算書に変更する件は対応ソフトが完成していないため延期することになった。

9) 倫理・安全管理委員会

委員の変更案が承認された。年度計画 1) 患者側弁護士からの助言医師依頼は規定に則り受け付けない 2) 医道審議会の行政処分は本会会員1名(1年間医業停止の処分)が該当したため処分を検討 3) 医療安全調査機構担当委員の検

討と協力 4) 医療安全行動へは適宜対応する。

10) 専門医制度委員会

委員の変更案が承認された。年度計画 1) 総合学会としての関連3分野専門医制度の連携強化 2) 修練医制度の確立と実態調査 3) 新たな専門医制度構築における胸部外科としての取り組み(専門医のあり方委員会および認定機構の動きを注視しながら)を検討予定である。

1) は、資格申請時の連携規定の確認、3分野横断的教育プログラムの再構築と実施に向けての準備を検討し、専門医制度の中で強化する方向を考える。2) は、修練登録制度の規則細則への明文化、専門医受験者に対するアンケート調査、修練指導者に対する症例数のアンケート調査実施、修練施設の質の評価実施に向けた基本計画案の作成予定である。また、呼吸器、食道分野における修練医制度の現状と実態調査を実施予定である。更に心臓血管外科専門医認定機構及び食道外科専門医について現状報告がなされ、呼吸器外科専門医合同委員会は以下の事項が報告された。

呼吸器外科専門医合同委員会報告

専門医申請の認定結果、2013年ASCVTSの呼吸器外科Post-graduate Courseを専門医の新規・更新申請の資格として認める。また規則及び施行細則

改正に関し、①本会Postgraduate Courseは呼吸器外科向けのプログラムの受講を対象

②呼吸器外科手術技術アドバンスセミナーを更新申請条件として認可 ③1階部分を外科専門医とする ④申請料などの変更が報告された。

11) 研究・教育委員会

委員の変更案が承認された。年度計画 1) PGCの具体的プログラム策定 2) PGC合本作成予定 3) サマースクールの件を検討予定である。また、来年のサマースクールの日程(心臓は8月24日、25日、テルモ、呼吸器外科は7月20日、21日、神戸)、2012年呼吸器外科サマースクール主催校からの剰余金80万円の返納が報告された。なお、サマースクールのビデオ教材を作成する際のスタッフ費用を大学法人に提出する申請書類に本学会主催であることを明記する件は、承認され、交通費等は支払うこととした。

12) 診療問題委員会

委員の変更案が承認された。厚生労働省からの診断群分類の見直しに係る調査、2014年度診療報酬改訂に向けて、補助循環用血液ポンプカテーテル(m.pella)使用基準について報告された。

13) 定款改訂委員会

委員の変更案が承認された。(14) 総務・渉外委員会

委員の変更案が承認された。会員証の發送、学術集会運営会社の選考、医師賠償保険及び所得補償保険(口数募集の変更及び加入年齢の引き上げ)について報告された。

15) 広報 (Homepage・Internet) 委員会

委員の変更案が承認された。Homepageのリニューアル、News Letter(No.17)の掲載内容が報告された。

16) 処遇改善委員会

委員は前年度と変更なしで承認された。

17) チーム医療推進委員会

委員は前年度と変更なしで承認された。

18) 施設集約化委員会

委員の変更案が承認された。来年2月の心臓血管外科学会時のシンポジウム『修練施設集約化の展望…心臓血管外科専門医制度のあり方を探る』の中で、専門医新規受験者のアンケート結果を報告、JCSO及び本学会学術調査結果からの現状分析、結果を公表予定である。呼吸器・食道の集約化に関しても意見聴取を行う。

19) 国際委員会

委員の変更案が承認された。年度計画 1) PGCの海外招請について会長及び研究・教育委員会とともに検討 2) CTSNetとの契約(委員会にて契約条項を再確認する) 3) HomepageのEnglishページを広報委員会とともに作成予定である

20) COI委員会

委員は変更なしで承認された。年度計画として、役員及び該当委員会委員のCOI開示に関して準備が整い次第実施する。

21) 補助人工心臓治療関連学会協議会

小児への人工心臓の植え込みの機会が増加するに伴い、上記委員会に日本小児循環器学会の入会希望の要望書の件について承認する。

二. 第66回定期学術集会について

会期は2013年10月16日(水)〜19日(土)、会場は仙台国際センター・東北大学百周年記念会館川内萩ホール、招請講演は10人程度を予定している。今期から本学会中に行われる医療安全講習会の主催は本会(倫理・安全管理委員会企画)で、共催が三学会構成心臓血管外科専門医認定機構と呼吸器外科専門医合同委員会という形式とする。また、本年度のプログラム号は印刷しないことが承認されたが、従来のプログラム号から抄録部分だけを削除した冊子は発送する。

三. その他

日本胸部外科学会学術集会時における体外循環ハンズオンセミナー

学術集会時に行われている体外循環教育セミナーは、心臓血管外科専門医認定機構が200万円を計上し、経費を支出しているが、同

時にハンズオンセミナーも開催されていて、主催母体はつきりしていないのではとの問題が提起された。日本体外循環技術医学会理事長からは、学術集会企画主催によるセミナーであり、これまでは(2006年〜2012年)経費につ

いても学術集会が負担しているとの回答があった。今後について検討したが、2013年は現状通り行い、それ以降は日本心臓血管外科学会、JASCTとも相談しながら、費用の件も含めて主催母体を明確にする。



## 呼吸器外科サマースクール

会期：2013年7月20日(土)〜21日(日)  
会場：神戸医療機器開発センター(MEDDEC)  
HP：<http://www.jacsurg.gr.jp/summer/2013/>  
申込：6月14日(金)締切 先着100名まで

## 心臓血管外科サマースクール

会期：2013年8月24日(土)〜25日(日)  
会場：テルモメディカルプラネックス  
※4月2日(火)現在。心臓血管外科サマースクールも掲載時には参加申込がスタートしている可能性があります。当学会または日本心臓血管外科学会のHPよりご確認ください。

サマースクール2013



# 若手医師の立場から

専門医を取得されている、もしくは取得を目指す若手の先生方に、日々感じていること、将来の目標などを語っていただきました。

## 先生方の人柄に魅かれて



私は卒後5年目で、大阪府立成人病センターの呼吸器外科レジデントとして勤務しています。

実は当初、呼吸器外科医はおろか外科医になるつもりも無く、消化器内科医になり内視鏡でしようかと漠然と思っていたんですが、当時の初期臨床研修では外科研修は必修でしたから、特に深く考えることもなく呼吸器外科を選択し、大阪大学呼吸器外科で3か月間の研修につきました。

当然、最初は手術を見ても何が行われているかほとんど分かりませんし、1回の手術でグッタリ疲れてしまい、正直あまり面白みを感じませんでした。

## 肺癌における手術の意義

しかし、徐々に頭も体も何とか手術についていけるようになると、徐々に興味が湧いて来、いつの間にか自分でも執刀してみたいと思うようになり、何より大阪大学呼吸器外科の先生方

の人柄に魅かれ、呼吸器外科医として生きていくことを選択しました。現在、呼吸器外科医のはしくれとして働かせていただいています。

一杯なのですが、手術の成功を告げると泣いて喜んでくれる患者さんや家族の方も少なからずいらっしゃいます。

その様な場に立ち会う度に、いつかこんな困難な手術を執刀できるようになりたいたいと思い、目標に向かって日々精進する毎日です。

## 心臓外科の怖さと魅力



胸部外科の分野で何も成し遂げていないのに何を書けばいいのだろう…、原稿依頼をいただいたときの気持ちです。

医師として5年あまり、心臓外科医として1年あまりが経ち、心臓外科を志した初心の振り返りとして書かせていただきます。

## 進路に悩んでいたときに

進路に悩んでいた研修医時代、外科ローテーション中に受け持った急性大動脈解離症例が心臓外科を志したきっかけでした。死の瀬戸際で来院された患者さんが、手術を経て元気に退院

石田 大輔  
(大阪府立成人病センター)  
卒業大学 大阪大学  
2009年 大阪大学医学部卒  
2009年～2011年 大阪大学医学部附属病院初期臨床研修医  
2011年より大阪府立成人病センター呼吸器外科レジデント  
趣味：旅行、読書、音楽鑑賞  
好きな言葉：為せば成る



される姿に心臓外科のダイナミックな魅力と同時に怖さを実感したのを覚えています。

また、恩師である杏林大学、窪田教授、須藤前教授との出会いがありました。自分が心臓外科をやっているのかとても悩みましたが、生死に直結する治療に関わるやりがいと暖かく指導して下さる先生の存在が私を後押ししてくれました。

## 環境に恵まれて

その後、一般外科研修時代に在籍した茨城県立中央病院は永井院長が外科医という恵まれた

## 会員証について

学術集会の参加には会員証が必要です。紛失・破損・汚損や改姓・改名された方は会員証再発行のお手続きをお早めに。詳細は学会HPをご確認ください。



環境でした。主に指導いただいた吉見先生は消化器全領域手術に精通し、日々のマラソントレーニングを欠かさない姿とともに、私の中での外科医像形成に大きい影響を与えて下さいました。

現在は母校大学病院で小野教授の下、成人・小児チームをローテーションしています。成人チームでは憧れだった中学高校時代からの先輩にご指導いただき、小児チームでは小児補助人工心臓症例を経験し、渡航移植に同行させていただきました。2名の同期入局者にも恵まれました。

## 日々勉強、発見、ときめき

臨床現場では自分の無力さを実感するばかりですが、日々勉強、発見、ときめきをこれほど実感できる科もないと思います。

幸せな家庭を築く、手術に精通する、留学する、研究する…夢はたくさんあり

島村 淳一  
(東京大学医学部付属病院心臓外科)  
卒業大学：東京大学  
一般外科研修：茨城県立中央病院  
心臓外科研修：東京大学医学部附属病院  
趣味：飼い猫と遊ぶこと。  
好きな言葉：才能は有限、努力は無限



2013年3月現在

## 編集後記

今回の1面は、日本胸部外科学会の懸案事項である公式英文誌G T C SのImpact Factor (二) 獲得に向けての大北編集委員長の特約寄稿です。二は学術誌の平均的な論文の引用回数を示すものであり、国際的影響度を測る指標です。残念ながら、「本邦の学会英文誌のなかで二を獲得出来ない雑誌はG T C Sをはじめほんの少数」です。二獲得により質の高い論文が数多く投稿され、G T C Sの国際的評価が高まるのが期待されます。Review論文の増加、「みんなでどうインパクトファクター」のキャッチコピーやポスター作製など大北編集委員長の強い指導力のもと、学会挙げて「前へ」進んでいます。二の計算方法としては直近2年の論文データが用いられます。会員諸氏におかれましては、既に二を獲得している英文誌へ投稿する際には、G T C Sの直近2年の掲載論文を是非とも引用されますようお願いいたします。

本年6月13日、14日には、大阪市立大学大学院消化器外科の大杉治司教授のもと、第67回日本食道学会学術集会が大阪国際会議場にて開催されます。学会のテーマは「明日への敢為(Challenge for the future)」です。因みに敢為とは、物事を困難に屈しないでやり通すことです。特別講演が予定されている塩沼亮潤大阿闍梨の過酷ともいえる行をとおして開かれた悟りは是非とも聞ききたいものです。また、本年5月29～31日には、兵庫医科大学心臓血管外科の宮本裕治教授のもと、第41回日本血管外科学会学術総会が、大阪国際会議場にて開催されます。学会のテーマは「急速な進化を続ける血管外科―低侵襲と根治性の追求―」です。今後、この二ユースレーターでは、胸部外科関連施設の「施設紹介」を企画しています。各施設の現状や特色などの原稿を募集する予定です。ご期待ください。

広報委員会副委員長 角 秀秋